

航空機戦闘報告

秘密

I. 概括

(a) 報告部隊 第47飛行隊群 (b) 基地 米国軍艦バターン (c) 報告番号 13
 (d) 発進: 年月日 1945年8月13日 時刻(地方標準時) 5時55分(-9)(区域): 緯度35度17分 経度143度30分
 (e) 任務 東京芝浦電気への爆撃(攻撃目標 496) (f) 帰投時刻 9時45分(-9)(区域)

II. 本報告によるわが機の公式装備

型式 (a)	隊群 (b)	数			搭載爆弾と魚雷 (一機当たり) (f)	装着信管 (g)
		発進 (c)	交戦機 (d)	攻撃目標 (e)		
F6F-5	第47戦闘機隊	4	なし	4	通常爆弾1000ポンド1発 AN-M65	頭部:AN-M1033A1(.1秒遅発) 尾部:AN-M101A2(.025秒遅発)
F6F-5	第47戦闘機隊	4	なし	撮影部隊	弾薬のみ満載	-----
TBM-3	第47雷撃機隊	7	0	7	通常爆弾500ポンド4発 M64	Nose:M103A1(.1) Tail:M101A2(.025)

III. 本作戰に従事した他の合衆国機または連合国機

型式	隊群	数	基地	型式	隊群	数	基地
	第83飛行隊群		U. S. S. エセックス				
	第34飛行隊群		U. S. S. モントレー				

IV. 発見または交戦した敵機 (II にのみ記載されたわが機によるもの)

(a) 型式	(b) 発見数	(c) わが交戦機数	(d) 遭遇時刻	(e) 遭遇位置	(f) 搭載爆弾、魚雷。 備砲	(g) 迷彩と記号
なし			(区域)			

(h) 明白な敵の任務 _____

(i) 雲の中で遭遇したか? _____ もしそうなら、雲状を記述せよ _____
(はい、いいえ) (フィート、型と1/10範囲を基礎に)

(j) 時間帯と太陽または月の光度 _____ (k) 透視距離 _____
(夜間、明るい月、日中、曇り空。等) (マイル)

V. 空中で撃墜または損害を与えた敵機 (II にのみ記載されたわが機によるもの)

(a) 敵機型式	(b) 撃墜または損害を与えたもの				(c) 攻撃場所、角度	(d) 認められた損害
	航空機型式	隊群	パイロットまたは射手	使用機銃		
なし						

VI. わが機の戦闘及び作戦上の損失または損害 (II にのみ記載されたわが機によるもの)

(a) わが機の型式	(b) 隊群	(c) 原因：敵機形式、 銃砲型式、または作戦上の原因	(d) 攻撃された場所、角度（外装、自動閉鎖 式油槽、攻撃された装備を記せ）	(e) 損失または損害の程度（撃墜された 機の通し番号を記せ）
1 なし				
2				

VII. 各個の死傷者 (II に記載された機のうち、左の番号により VI に記載された機の中から確認せよ)

(a) 番号	(b) 隊群	(c) 氏名、階級または等級	(d) 原因	(e) 状況または状態
		なし		

VIII. 帰還機に関する巡航距離、燃料ならびに弾薬の資料

(a) 航空機型式	(b) マイル (往路)	(c) マイル (復路)	(d) 平均 滞空時間	(e) 平均 積載燃料	(f) 平均 消費燃料	(g) 消費弾薬総計				(h) 帰還機数
						.30	.50	20MM	MM	
F6F-5	250	250	4 1/2	400	310-320		400			8
TBM-3	250	250	4 1/2	435	298		0			7

IX. 遭遇した敵対空砲火 (各行ごとの1区画をチェックせよ)

口径	なし	小	中	大
重度 - 時限信管付弾丸、75mm またはそれ以上		×		
中度 - 衝撃信管付弾丸、20mm ~ 50mm			×	
軽度 - 機関銃、6.5mm ~ 13.2mm		認められず		

X. わが機と敵機との性能比較 (左のチェック表を使用せよ)

XI. 敵艦船または地上目標に対する攻撃 (II に記載されたわが機によるもの)

- (a) 目標と位置 厚木近郊の工場 (攻撃地域内の) すべての艦船に対して) (b) 目標到達時刻 8時20分～8時40分(-9) (区域)
- (c) 目標上空の雲の状態 7000、層積雲、9/10 (フィート、型と1/10範囲を基礎に)
- (d) 目標視界 雲で薄暗かった (明白、ほんやり、不完全、雲で薄暗かった、など) (e) 透視距離 雲の上で15～20 雲の下で2～5だった (マイル)
- (f) 爆撃方法 滑空 (水平、滑空、または急降下) 使用爆撃照準器 8型反射器 (型式)
- 1 飛行当たり投下爆弾数 戦闘機 1機 雷撃機 1機 (数) 戦闘機は爆弾 1 個のみ 間隔 地上で100 (フィート) 爆弾投下高度 9000 (フィート)
- (g) 地上で攻撃した敵機数：
破壊したもの — 破壊と推定されたもの — 損傷をあたえたもの 1

(h) 照準点	(i) 規模またはトン数	(j) 攻撃機数 (k) 隊群	(l) 各照準点に消費の爆弾、弾薬	(m) 照準点に対する命中数	(n) 与えた損害(なし、わずか、重大、破壊または沈没)
1 八王子または厚木近郊の工場		4	1000ポンド爆弾 4 発	未確認	炎が立ち上がった他は、パイロットは結
		第47戦闘機隊			
2 上記の工場		7	500ポンド爆弾28発	未確認	果を確認できなかった。
		第47雷撃機隊			
3 小櫃埠頭地域		1 対潜哨戒機	ロケット弾 4 発	埠頭地域へロケット弾	損害評価不能。
		第47戦闘機隊			
4 新島の南西にある一飛行場		2	ロケット弾 4 発と機銃掃射		
		第47雷撃機隊			
5					

- (o) 結果： (目標艦船上で確認された全攻撃と、特に関心をもった地上目標について、上面または側面、または両面の図を作成せよ。その際、攻撃の方法と位置を明示せよ。全目標に対し、位置と攻撃結果を示して上記の番号と同一にせよ。必要ならば追加の用紙を使用せよ。)

(1) (2) 指示された目標は雲に閉ざされていて、効果的に構成された攻撃が行うことを不可能にした。したがって、エセックスのリーダーは八王子もしくは厚木近郊にある名の知らぬ工場への爆弾投下を攻撃隊に指示した。
工場の位置についても正しく定めることができなかった。
損害程度は評価できなかったが大きな火災が発生した。

(3) (4) 母艦に帰投する前に、一機の対潜哨戒機のパイロットは、効果を確認することなく、小櫃埠頭地域に機銃掃射とロケット弾を発射した。
二機の対潜哨戒機のパイロットたちは、新島に駐機していた一機の飛行機に対しロケット弾を発射した。
飛行機には命中したが、燃え上がらなかった。

- (p) 写真は撮ったか? はい 損害の写真を撮った場合は、添付せよ。

XII. 戦術と作戦上の資料 (説明と意見。左のチェック表の適合する項目に従い、行動を詳述するとともに、意見を自由に書け。)

この攻撃は、東京芝浦電気に対する爆撃が指示されていた。(攻撃目標496)

国連が降伏条件に関する日本の回答を待っているため、攻撃が中止になるかどうかは、はっきりとわからなかった。0100時、その日の攻撃は中止となった。

0315時、対空哨戒の為に予定されていたパイロットたちは待機室に集合し、直ちに、その日の攻撃が再度計画されたことを告げられた。

0555時、バターの飛行機が発進し、エセックスとモントレイの飛行部隊と合流した。

攻撃部隊は東京の南方を飛行し、相模湾上を北方へ進路を変え、富士山の東側を進んだ。

指示された攻撃目標のある横浜、川崎地区は渦を巻いた雲に閉ざされていた。低くたれ込めていた雲は、小さな目標に対する効果的に構成された攻撃を妨げていた。

その結果、エセックスのリーダーは全てのパイロットに、八王子または厚木の近郊と思われる工場を爆撃するように指示した。

雲が目標を曖昧にしたため、パイロットたちは攻撃目標を正確に同定することができなかった。

雷撃隊のパイロットによれば、その地域に投下された爆弾により大きな炎が上がったということだ。

その間、写真班の戦闘機隊は、指示された攻撃目標(496)上空を飛行した。

他のグループによって攻撃が行われている間中、雲の切れ間から写真を撮影した。しかし、損害を評価する写真を撮るための条件としては、ほとんど満足のいかないものであった。

この地域の対空砲火は、重度のものは貧弱であり、中度については普通であった。

飛行中の敵機には遭遇しなかった。

無事に母艦に帰投した。

対潜哨戒機

0555時から0945時まで対潜哨戒機として飛行した4機の第47戦闘機隊は、監視区域を旋回しながら、母艦への途上、適当な目標に対し攻撃した。

対潜哨戒機としての戦闘機隊のうち2機は、4発のロケット弾を装備していた。

スタンレー大尉(WKAR, USNR,)は、千葉半島の東海岸にある小櫃埠頭地域に機銃掃射とロケット弾を発射した。

マリアン大尉(*ARNS, USNR,)も同様。

グラン中尉(AVKR<A>Y, USNR,)は、東京の南方、新島の飛行場で単発の飛行機に対し機銃掃射を行った。

それは炎上しなかった。

XIII. 実質的な資料 (左のチェック表に従って、行動や適合性について自由に意見を述べよ。必要ならば追加の用紙を使用せよ)

装備は申し分なく、効力を発揮した。

O. トブローフ、
予備海軍大尉

H. R. マツア、 予備海軍少佐
CC-第47戦闘機隊

D. M. ステッソン
予備海軍大尉

A. H. クランキー, Jr 海軍少佐
第47空母飛行機群